

平成28年 7月6日(水)

学校法人三幸学園
福岡リゾート&スポーツ専門学校
校長 木下 忠 殿

学校関係者評価委員会
委員長 伊藤 啓司

学校関係者評価委員会報告

- 平成27年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- ① 伊藤 啓司 (株式会社ルネサンス 教育研究チーム課長)
- ② 高橋 八十弥 (NPO法人北九州スポーツクラブ連絡会 理事長)
- ③ 藤田憲子 (福岡興業株式会社)
- ④ 森田 法子 (卒業生保護者)
- ⑤ 森田 和紀 (卒業生)

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

平成28年 7月 5日 (会場 福岡リゾート&スポーツ専門学校 301教室)

3. 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

平成27年度 学校法人 三幸学園 福岡リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 所 慎

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 伊藤 啓司

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また、「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 重点施策振り返り

・職業実践教育の先進校

健康スポーツ科において、職業実践専門課程に認定頂き、健康スポーツ産業への即戦力の人材育成、輩出をする学校であり続けること、企業様から求められ続ける学校であることを踏まえて、教職員が「職業実践教育の先進校」という共通認識を持って学校運営を実施した。

平成26年度就職率実績 96.4% → 平成27年度就職率実績 98.2%

平成26年度求人企業社数 255件 → 平成27年度求人企業社数 355社

・科目間連携強化

環境設定の一施策として、科目間の連携を強化すべく、担当講師間で授業進捗と授業内で使用する専門用語や表現を合わせるような打ち合わせを積極的に行えるようにシラバスを詳細化した。

② 学校関係者評価委員コメント

・明確なビジョン、ミッションを持ち、教職員の方々が意識高く、実現に向けて様々な課題に向かい取り組まれていることを活動や教職員の方々の発言から推察できる。

・特に職業実践教育を具現化するために、カリキュラムやシラバス、コマシラバスの改訂や新たな教材の導入など授業の質の向上に積極的に取り組まれている点が高く評価できる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	自己評価	学校関係者評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

- ・業界のニーズに基づき、教育目標や育成人材像を設定していく精度を高める
- ・学生数増加に伴う教育理念・目標の浸透力の強化

② 今後の改善方策

- ・企業や業界団体との関係性を高めていく活動を通じ、業界動向を正確に把握し、情報の精度を高める
- ・収集した情報を多面的に評価し、教員研修に反映しつつ教育課程の編成に活用していく
- ・全学生に教育理念・目標を踏まえた個人目標を掲げさせる

② 特記事項

業界のニーズをより深く理解し、教育に活かしていくことを目的に、平成25年度より株式会社ルネサンスと産学連携協定を結び、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。加えて、授業の質の向上を目指し、科目間連携を実施するべく教員研修も積極的に実施している。内外問わず、業界企業との連携を深め、健康に関する意識向上のためのイベント、ボランティアなどに積極的に参加している。

④ 委員コメント

- ・学校の理念や育成人材像が明確に定められていて判りやすい
- ・社会環境は常に変化していくので、ウォッチし続ける姿勢が重要
- ・業界との連携は十分に取れているように思われる。今後も継続的に教育の質を高めて欲しい
- ・学校を閉鎖的な空間にせず、学生と社会とを繋ぐ架け橋の役割を今後も果たし続けて欲しい
- ・学校の理念や育成人材像が明確に定められ、それに向けて教育が提供されている
- ・決められた委員会のみならず、日頃から社会との繋がりを大切にし、教育内容のメンテナンスに努められている

(2). 学校運営

評価項目	自己評価	学校関係者評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	4
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

- ・教務事務における情報システム化等による業務効率化

② 今後の改善方策

- ・自動化できる業務に関しては情報化し、業務の効率化を図る

③ 特記事項

毎週、運営基幹教職員の意思決定会議を実施。また年3回、全教職員・講師に向けての会議を実施し、運営方針の浸透と共に、情報共有を積極的に行なっている

④ 委員コメント

- ・年度毎の運営方針が明確に示されていて分かりやすい
- ・方針の徹底が会議等で全職員に行われている点が評価できる
- ・業務の効率化を図り、教員の皆さんが教育に出来る限り専念できる環境を作って欲しい
- ・適切、且つ安定的に学校運営がなされていると感じる
- ・引き続きITの活用等による業務の効率化に取組み、教員が教育に集中できる環境づくりを推進していただきたい

(3). 教育活動

評価項目	自己評価	学校関係者評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

- ・更なる教育活動の質の向上(社会ニーズの取り込み、体系化、教育手法の開発)
- ・資格取得のみが目的にならないような指導体制の再構築

② 今後の改善方策

- ・平成28年度より株式会社ルネサンスの協力の下、社会のニーズに対応した実践的な職業教育カリキュラムを複数学科にて策定する
- ・各学科の技能要件を設定し、関連資格を設定することにより、その取得が習熟を図る手段の一つとするよう位置づける

③ 特記事項

- ・平成27年度4月より健康スポーツ科のカリキュラム改訂をベースにしたスポーツトレーナー科のカリキュラム改訂を実施した
- ・平成27年本校健康スポーツ科が、文部科学省職業実践専門課程学科認定校となった

④ 委員コメント

- ・毎年課題を洗出し、カリキュラムやシラバスの改訂を進めている点が評価できる
- ・複数企業との産学連携によって実習の機会が豊富に用意されている点が評価できる
- ・職業人育成の観点から感受性、思考力、行動力を養うための指導の充実を期待している
- ・キャリア支援という観点より、昨今の業界動向を踏まえて、今後起業するための知識や方法などをカリキュラムに反映してみてもどうか

(4). 学修成果

評価項目	自己評価	学校関係者評価
就職率の向上が図られているか	4	4
資格取得率の向上が図られているか	3	4
退学率の低減が図られているか	4	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

- ・資格試験の資格取得率の更なる向上
- ・卒業生の社会的な活躍の情報収集と教育活動への反映
- ・退学率の更なる低減

③ 今後の改善方策

- ・資格取得に当たる動機づけを学年単位とクラス単位にて強化して実施する
- ・授業内の資格取得対策を強化すると共に、受験対策講座を希望者制にて実施する
- ・校友会の活動を積極的かつ戦略的に支援することで教育活動に活かす
- ・学科会、クラス会を必要に応じて関係教員を招集することで情報共有に努め、止むを得ない場合を除く退学を未然に防止する

④ 特記事項

- ・平成27年度進路決定率(進学者も含む):98.2%(平成28年6月1日現在)
- ・平成27年度退学率:6.1% ※平成26年度退学率6.9%
- ・平成26年度より卒後教育を目的とした資格認定継続講習会を年3回実施
- ・キャリア教育強化の観点より、キャリアガイドブックを作成し学生配布

④ 委員コメント

- ・高い就職率を維持している点は高く評価できる
- ・卒業生を追いかけていくことで、長期的な学修成果を確認し、在校生向けの教育内容強化や改訂に役立てていくことも検討できるのではないかと

(5). 学生支援

評価項目	自己評価	学校関係者評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4	4
保護者と適切に連携しているか	4	4
卒業生への支援体制はあるか	4	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

- ・入学前に1回、保護者会の実施と年2回の学年通信を送付し、返信用はがきを入れて、コミュニケーションを図るも返信率が低い
- ・保護者との連携は問題行動のある学生のみと偏りがある

④ 今後の改善方策

- ・年度初め、長期休み前後に全学生の保護者との電話等による情報共有を実施し、保護者の意見を取り込む

⑤ 特記事項

- ・平成26年度より、同窓会ホームページを開設し、卒後支援体制を構築する

④ 委員コメント

- ・学生支援の体制はとても手厚いように感じる
- ・安心して学習するための環境が整っており高く評価できる
- ・中、高生のキャリア教育、職業教育に貢献する活動を検討しても良いと思う

(6). 教育環境

評価項目	自己評価	学校関係者評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	4
防災に対する体制は整備されているか	4	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

- ・更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する

② 今後の改善方策

- ・社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する

③ 特記事項

特になし

④ 委員コメント

- ・実習先の開拓が積極的に行われており高く評価できる
- ・学生数や社会の変化に合わせて適宜施設を更新して欲しい
- ・防災に対する備えも出来ているように見受けられる

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	自己評価	学校関係者評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	4
学納金は妥当なものとなっているか	4	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
- ・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している
- ・平成28年度入学生より消費税増税に伴う学費の値上げを他校の学費水準を踏まえ実施する

④ 委員コメント

- ・適正な活動によって、学生の受け入れが出来ており評価できる
- ・入学希望者が職業人に触れられる機会を設けている点が評価できる
- ・職業観など卒業後の具体的なイメージを持ち入学を決められると良い
- ・学納金は妥当。奨学金制度も準備されていて評価できる

(8). 財務

評価項目	自己評価	学校関係者評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・6年前に中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている

③ 委員コメント

※委員会開催時に27年度決算が終了していなかったため26年度財務諸表を参照して財務情報を共有した

- ・健全な財務基盤を持ち、経営の安定性は高く評価できる
- ・今後も継続して透明性を保って欲しい
- ・適切に会計監査を実施し、今後も法令を順守し運営して欲しい

(9). 法令等の遵守

評価項目	自己評価	学校関係者評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	4
自己評価結果を公開しているか	4	4

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、全ての職員の法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る

④ 特記事項

特になし

④ 委員コメント

- ・自己評価への取組み及び公開は評価できる
- ・適切に運営をされているが、課題意識が高く、更なる向上が期待できる
- ・引き続きコンプライアンスの遵守を徹底し、ステークホルダーの信頼を高め続けて欲しい

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	自己評価	学校関係者評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3	3

「適切」:4 「ほぼ適切」:3 「やや不適切」:2 「不適切」:1

① 課題

- ・地域に対する公開講座について、卒業生のフォローアップ研修の要素が強い講習会が多く、地域や一般の方に向けた講座が少ない

② 今後の改善方策

- ・地域貢献に繋がる公開講座を企業や行政とタイアップして積極的に実施していく

③ 特記事項

ボランティア活動に関して、本校では「サービスマーケティング」と位置付け、企業様と共に地域貢献を行うことを教育の一環として展開している。

特に公益財団法人福岡市体育協会や在福プロ球団の福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡との連携を積極的に行っており、学生は在学期間中に平均約3回のサービスマーケティングに参加をする。そのため、スポーツ指導者を育成する専門学校という観点での地域からの認知度も高く、また、地域やスポーツ業界関係者から取り組みに対してご評価頂いている。

<事例紹介>

・スタージャンプ福岡

平成19年設立当初より公益財団法人福岡市スポーツ協会、福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡、コカコーラレッドスパークス、宗像サニックスブース、九州電力キューデンヴォルテクス、ライジング福岡、福岡Jアンクラス他と子どもたち、さらには保護者に種目を超えてスポーツの素晴らしさや、体を動かす楽しさを伝え、スポーツを遊ぶ子どもたちを増やすための活動を実施している。

・雁の巣レクリエーションセンターサマーキャンプ

平成21年度より、小学4～6年生を対象とし、夏休みを利用した宿泊型イベントにおけるプログラム提供を行っている。このイベントをきっかけにし、子どもたちへのスポーツ普及活動、さらには、保護者のスポーツへの理解を深める活動に参加している。

・JFA キッズサッカーフェスティバルユニクロサッカーキッズ

平成15年の開催当初より「多くの幼年期の子どもたちに、サッカーを通して身体を動かすことやスポーツをすることの素晴らしさを体感してもらいながら、心身の健やかな育成に貢献してい

きたい」という社会貢献性の高いテーマに共感し、財団法人福岡県サッカー協会と共に6歳以下の園児たちへのスポーツ普及活動を行っている。

・アサヒ緑健スポーツメセナふれあい健康ウォーク

平成15年の開催当初より、高齢者を中心としたウォーキングを通じた健康の保持増進活動に参加をし、さらに、ウォーキング中のサポートのみならず、ウォーキング後のケアを実施することによって、ウォーキングを生涯スポーツとして定着させるための活動のサポートを実施している。

・障がい者スポーツサポート

福岡県知的障がい者スポーツ大会、九州視覚障がい者サウンドテーブルテニス大会、九州盲人スポーツ大会、福岡県身体障がい者スポーツ大会、第10回ブラインドサッカー選手権 B1大会などの障がい者スポーツ大会の運営サポートを通して、障がい者スポーツの理解と発展のための活動を実施している。

④ 委員コメント

- ・学生は、明るく、挨拶もしっかり出来る点に教育効果が表れている
- ・教育効果の見込まれるボランティアを選別し、学生に紹介している点が良い
- ・地域スポーツに積極参加している姿勢は高く評価できる
- ・教育資源を活かした地域貢献を今後も積極的に行って欲しい

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価の結果を踏まえて、専修学校として職業実践教育を関係企業様との連携の元、概ね実施できていると感じる。少子高齢社会における健康を担う人材育成を質、量共に引き続き充実を図るよう努力していきたい。学んだことをアウトプットする先として、学校周辺の地域に貢献していくような仕組みも模索しながら、学校のみならず企業様や地域が人を育てるといった意味でも教育理念である「技能と心の調和」を形にしていきたい。

以上